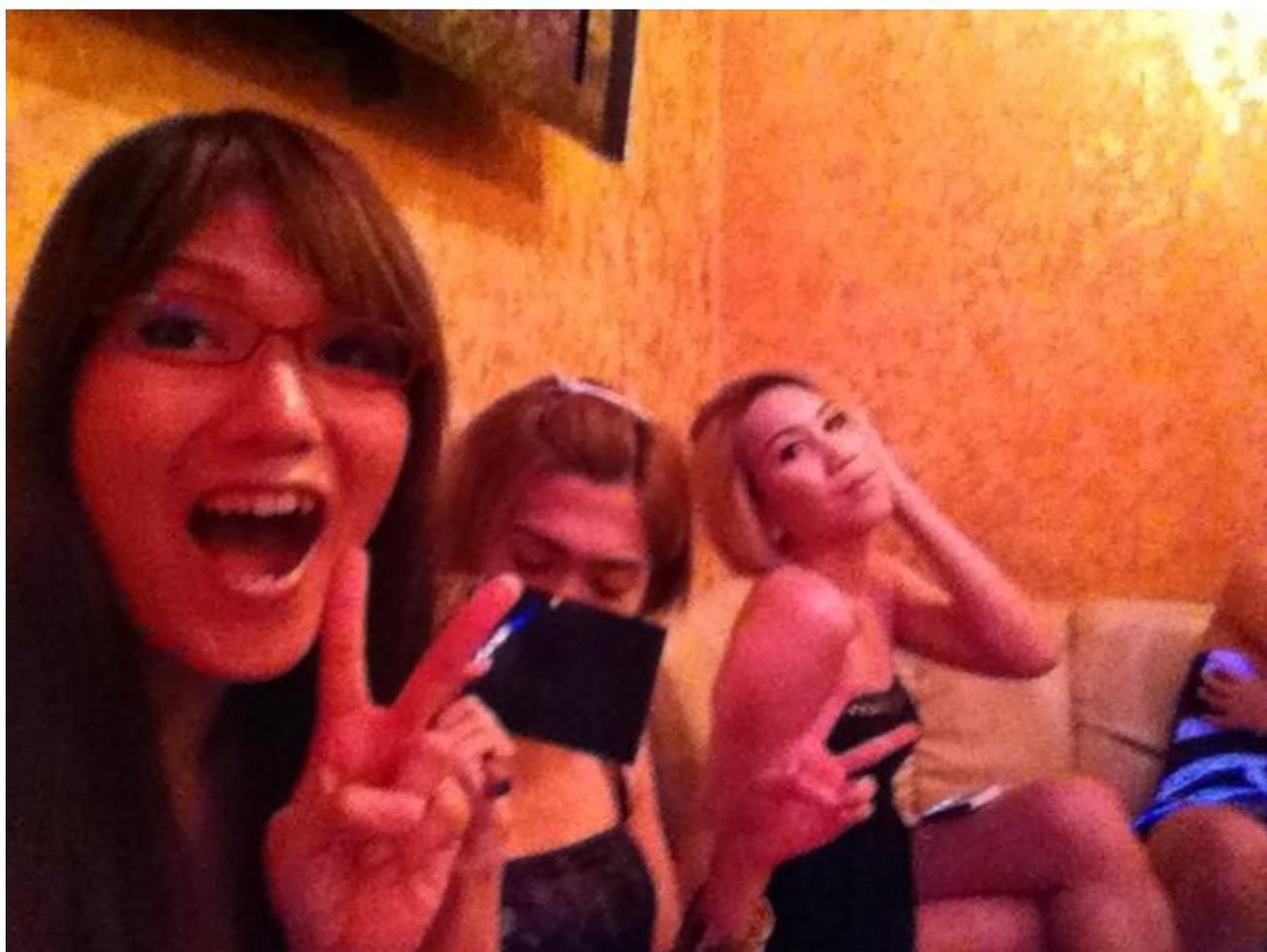


ニューハーフの価値観と整形手術

著者:スザンヌみさき



目次

はじめに	3
そもそもニューハーフとは?	4
どんな人がニューハーフになるの?	5
なんで若くして女になれたのか?	7
なぜ夜の仕事をしようと思ったのか、その理由	14
整形手術とニューハーフ	16
本当に間違っているのは何なのか?	19
常識とは一体何者だっ!	19
誰が決めやがったそんなこと	21
自分を持っているのがニューハーフ	22
さいごに	26

はじめに

こんにちは！スザンヌみさきです。

今回は「**ニューハーフの価値観と整形手術**」と題して、主にニューハーフとして夜のお店で働いている人の価値観…



つまり、彼女達がどんな考え方、決意、意思を持って女として生きているのか？

そして、**なぜ彼女たちは「女性以上に女性らしい」と言われるほど美しいのか？**

その理由をこの場で全部ゲロゲロっと吐き出しつつ、ニューハーフの世界にどっぷりつかってきたワタクシ、スザンヌみさきが、ニューハーフの世界で生きてきた中で感じてきた「**ニューハーフの脳みその中**」を、わたしの見解を交えながら伝えていきます。

この PDF を全部読み終わった頃には、あなたもニューハーフ達をより身近に感じるようになり、彼女たちの「美」に対する考え方や熱意をあなたの心の中に宿すことができるでしょう。

…男性の方は読まないほうがいいかもしれません。

もしかしたらこの PDF が原因で女になっちゃうかもしれないので。

読まれる場合は、細心の注意を払って読み進めてくださいませ。

心の準備は OK ですか？ では行きますよ！！

そもそもニューハーフとは？



ニューハーフのお店に勤務していて、なおかつ「ホステス(女)」として働いていれば、身体を完全に手術して女にしていようが、していまいが、金玉、チンコ残っていようが、それはニューハーフなのである。 つまり「ニューハーフ」として働いていれば、それはニューハーフなのである。

が、

私はそうは思わないので、私なりの見解を話します。

私が思う、ニューハーフというのは、生まれた時の性別は男だったんだけど、今は女として生きていて、なおかつ「女性ホルモン」を投与してて、「男性機能」がない美しい女性のことをニューハーフだと言いたい。

つまり

- (1) 女性ホルモン投与
- (2) 金玉がない
- (3) 見た目が女性

以上、この3要素を併せ持っていれば「ニューハーフ」と自称してもいいと思う。

私が「女性ホルモン」と「睾丸摘出」を条件に出したのは「男として生きる意思がない」ことを、身体を張って証明しているからである。

そして「見た目が女性っていうのは「女として認められる姿なのか？」ってことですね。

たとえ女性ホルモンを投与していて、睾丸摘出していたとしても、男性として生活していたり、会社では男性として働いているとか…… まだ見た目が「男」であれば、ニューハーフとは認められないな。

たとえ本人が「私は女よ！」と思っていたとしても、客観的に女だと認められない姿ならば、やはりニューハーフではなく「女っぽい男」でしかないと思うのだ。

どんな人がニューハーフになるの？

ニューハーフとしてお店で働いていると、いろんなニューハーフと知り合いになれます。そんな経験をしてみて、ニューハーフになる人の共通点を発見したので、ここに書くよ。

(1) 性欲が強い

100%の人がそうじゃないんだけど、若くからニューハーフとして活躍しているお姉さんは、高確率で性欲が強い。つまり、男遊びが盛んなのだ(笑)

彼女たちはまだ「男」として生きていた時さえ、男性との肉体関係が豊富。

相手の男性は、男性が好きな男性(ゲイ)ってこともあれば、女性として見てくれた人もいたようで、自分の容姿が男だったとしても、性欲の方が上回っていたのか、見た目が可愛かったのかわからんがとにかく、男とやりまくっていたのだ。

おもしろいことに、キレイなニューハーフは共通して、男性時代から男性との肉体関係があるとのこと。

見た目が男っぽいのに女として生きているなんて、「押しの強さ」も女として生きるためには必要なんでしょうね。

(2) 逆境を乗り越えている

若くしてニューハーフとして、女として生きている彼女たちは、少なからず過去につらい経験がありますね。

私が名古屋で働いていた時の、2歳年上の先輩は、化粧して髪も伸ばして高校に通っていたんだそうですが女子生徒にけっこうバカにされてたみたいです。オカミみたいだと。

おそらく、女子生徒に限らず、男子生徒の中にもバカにする生徒、変態扱いする生徒いたのでしょうけど、それでも先輩は**女としての自分の生き方を曲げなかった**ようで、卒業後すぐに沖縄のニューハーフパブに入店しています。

また、私の実体験でも、少なからず差別・・・なのか微妙ですが、偏見みたいなのはありましたよ。

トヨタ自動車で期間従業員として働いていた時は、**同じ職場の女性社員の方が口を聞いてくれなくなったり無視するようになった**し、ニューハーフとして名古屋のお店で働きた初期は私の地元、熊本県の**私の叔父さんは「2度と地元に戻ってくるな」と言い放ち、実のおばあちゃんは、「私は女として生きていく」宣言に泣き崩れていました。**

ついでに言うと、地元のおばさん(母親の妹)は、私の言動が理解できなかつたらしく、**「今まで男として生きてきたのに女になるなんてオカシイ、異常だ」という手紙を**わざわざ書いて送ってきました。まあ、**田舎なのでしゃーないっすね(笑)**

(3) 自分を女だと思っている (思い込んでいる)

若くしてニューハーフ、女性として生きている人の一番強い意思はやっぱコレ。

「私は女だ」と、思い込んでいることです。

思い込んでいるっていうのは、たとえ身体が完全に男性で、男性機能がしっかりあり、

女性機能は一切ない、染色体も男性そのもので、身長、体格、骨格、声、見た目が完全に男だったとしても

「私は絶対に女なんだ」という意思をブレずに持ち続けているって意味。

(若くして女として生きている)彼女たちにとっては「性同一性障害」とか「社会的認知」とか

実はあまり関係なくて、自分が女だということは自分が一番認めていて、

たとえ自分以外に認める人がいなかったとしても、「私は女なんだ」という確固たる意思を常に持っている

はたから見たら「ただの勘違い」とか「思い込み」だと思われたとしても、

「そんなのカンケーねえ」と思っていますね。 だから男性の身体でも男性とセックスしたりします(笑)

なんで若くして女になれたのか？

10年くらい前までは、まだ「ニューハーフ」って言葉や「オカマ」って言葉が一般的じゃなかったし、

「オカマは差別用語」とまで言われてました。 (別に差別用語じゃねーし)

日本社会もあまりオネエとか同性愛とかそういう「一般的じゃない人」の存在を認めてなかったし、

認めようとしなかった。隠そうとしていたし、子供の教育に悪影響だとも思われていた。

でも今は社会も環境も変わってかなりニューハーフやオカマ、同性愛が認められ、認知されています。

現に10代から女性ホルモンを始め、女性にしか見えない性同一性障害の子、ニューハーフの子もいます。

10年前の日本から見たら、かなり恵まれている環境なんですけど…

環境が変わっても、まだ女として生きられない MTF はいるし、どんな逆境でも女として生きている MTF もいる

この違いってなに？原因は何なんだろう？ その理由を解説します。

「女になる」のではなく女として既に生きている



「ニューハーフは性欲が強い」の部分でもちよいと話したんですけどね、若くしてニューハーフ、女性として生きている MTF の共通点ってここだと思う。

「女になりたい！」ではなく「私は女なんだ！」という部分。

私は女であり、誰がなんと言おうと、女なのである。 だから女として男性と付き合うし、セックスもする。

見た目はまだ男っぽいかもしれないけど、心(精神)は完全に女なのだから女なのである。

見た目が問題なら手術すればいいだけの話。

愛知県出身でモデルの「佐藤かよ」さんは、小さい頃から自分のことを女だと思っていて、女のコとして生きて行きたいのに、「男」を求められる環境に疑問を持っていたそうです。

TV でひっぱりだこの「はるな愛」さんは、小さい頃から自分のことを女のコだと思っていて、初恋の相手は男性だったんだとか。

じゃ、スザンヌみさきは？

私は生まれた時から自分のことを「男」だと思っていて、好きになる相手もどっちかと言うと女性よりでした。趣味も男の子の遊びばかりだし、性格も男性的で女性的な要素は少なかったかな。

ただ、思っていたのは、「男の身体」になっていく自分がすごく嫌で、男性器、ヒゲ、体毛、声、顔骨格などなど…… 自分の中の「男」の部分がものすごく嫌でした。吐きそうなくらい、自殺しそうなくらい。

そんな自分を客観的に見てみた結果、「男になるのは嫌だ、どっちかという女になりたい」という結論になったので、女性として生きる決意を固めました。

「私は女性なのだ」という決意が固まる年齢が早ければ早いほど、女性として生きる年齢が早まると思います。

つまり、「女になりたい」と思っているうちはまだ男性で、「私は女なのだ！」と決心した瞬間からが女性なのだ。 そうだと私は思う。

邪魔なものは排除

「私は女なのだ！と決心した瞬間からが女性である」とは言ったものの、決心しただけじゃ当然ながら見た目はまだ男のままです。

今の状態を周囲が見たら「私は女だと言いはっているだけの男」にしか見えないし

「頭オカシんじゃないのこイツ？」と思われても仕方ないですね。

っというワケで、女として生きようと決心した人は、女として生きるためには邪魔なものを**ジャンジャンバリバリ排除**して行きます。

例えば

- ・ムダ毛(ワキ毛、すね毛、もも毛、ヒゲ、腕毛など…)
- ・金玉(睾丸)
- ・チンコ(陰茎)
- ・男としての過去
- ・男時代を知っているどーでもいい知り合い

ここで注目してほしいのは**「女性になる上では邪魔だから排除する」**っていう部分。

これは決して「脱毛すれば女になれる」とか、

「チンコ取って性転換すれば女になれる」という理由とはちょっと違う。

「認められたいから取る」というんじゃなくて**「自分がこうなるためにいらぬモノを取る」**

っていう感覚ですね。 ちょっとむずかしいかな。

つまり、彼女たちは「認められるため」にやるんじゃなくて

「自分がこうなりたいから」やるって**感覚で行動している**んだと思います。

必要なモノを取り入れる

「必要なモノ」っていうのは **自分の夢や目標を叶えるために必要なモノのこと**ですね。

例えば私の場合、地元の九州にいたままでは、きっと女として生きていくことができないだろうし、ニューハーフのお店もない、ホルモン注射をやってくれる病院もないだろうから、東京や大阪といった都市部に引っ越したほうが何かとラクだろうなと思ったので引っ越ししました。

引っ越した先の新しい土地では、当然ながら知人や友達はいないし、言葉もわからない、土地勘もなかったです。しかし、引っ越すことが、自分の自己実現に必要なだから引っ越したまでです。

女性ホルモン注射や睾丸摘出手術ってのも「必要だから」やったこと。

私が生まれた時から女らしい体型であれば女性ホルモンみたいな身体に良くないものを毎月注射することはないし、生まれながらに金玉がなければ、睾丸摘出手術もする必要なかったでしょう。

ただ、私は金玉いらなかったし、金玉を取れば男性ホルモンが分泌されなくなり、より早く女性化が進むということと、「金玉を取った」という事実が私の本気度を示してくれると思ったので手術したまでです。

「手術をするため」に女になったのではないし、もし仮に、手術をしても

「女としては認められない」ということがあっても、じゃーどうすればいいか考え、行動していくのみ。

「認められないから」・・・という些細な理由で足を止めたくないし、行動を辞めたくはないんですよ。

何かが「出来ない」としたって、それは行動を辞める理由にはならなくて、「じゃあ違う方法を探そう」と思えば行動はずっと続けていくことができる。

何かが足りなければ、必要なモノを探して取り入れていけばいいだけだと思います。

自分のことを否定しない

「否定しない」ってことは「自分のことを認めている」という事である。

男として生まれた事実、オカマ(ニューハーフ)として生きている事実、
自分の身体は男で、まだ男性器が付いているということ、戸籍が女性に変えられたとしても、
子供を生むことはできないってこと。

ニューハーフとして生きている人たちはそんな自分自身のことを「知って」いるし「認めて」います。

ここで言う「認めている」のは「私はこうなのだ」と認知していることであって、

「男なのだからしょうがない」という諦めや「もう男でいいや」っていう意味の認めているとはちょっと違う。

学生でいうなら、「私は社会の授業がニガテだ」とか「あんまり数学は得意じゃない人間なんだな」と

自分のことを客観的に分析できているって意味です。

例えば、「私は数学がニガテだな」って思ったら、次のテストの勉強は数学を優先的にやるでしょうね。

これをぜひとも自分の性別でもやってほしい。

「私は男で生まれてきたし、女とは程遠いかもしれない」と、気づいたら、

「じゃ、女らしくなりたいから、女として行動していこう」「女性ホルモンを始めよう」「金玉は取ってしまおう」

と、考えられるようになる。

当たり前と感ずるかもしれないが、これは本当に大事。

今の自分を一度客観的に見て、どんな状態なのか確認し、認める。

「私は声が低い」「私は肩幅が広い」「私は体毛が濃い」「私は身長が高すぎる」「私は筋肉質すぎる」

「私はどうみても男顔だ」「喉仏が出すぎている」「ヒゲが濃い」などなど

自分の現状を把握して、問題点を見つける(認める)。

そして、「じゃあどうすればいいのか？」ってことを考えて行動できるのがニューハーフだよ。

ニューハーフの子は「自分は男らしいから女にはなれない」なんて思っている子は一人もいない。

「自分は男らしいからもっと女を磨かなきゃ」って思っている人は 99%くらいいるでしょう。

「諦める」とは思考停止であって、それ以上の変化も成長もないけど、

「対策を考える」とは、脳みそ使うことであって、変化も成長もある。

変化と成長をするためには、今の現状を一旦「認める」ことで、客観的に対策を考えていくことができると思う。

「お金がないから手術できません」

って思うのなら、**「じゃあどうすれば手術代を用意することができるのか？」**と考えるおして欲しい。

(思考停止した瞬間、そこで死ぬとと思ってください)

ニューハーフは「今の自分のままじゃダメ」って思っているからこそ、

手術や整形手術をしてでも、目標とする自分の姿になろうと行動する。

「私は今のままでいい」と思ってたなら、手術も行動もなにもしないっすから。

だからまずは「自分を認める」ってことから始めてみてはどうだろうか。

なぜ夜の仕事をしようと思ったのか、その理由

夜の仕事を働いている理由、働こうと思った理由は人それぞれでしょうから、ココでは私が「なぜ夜の仕事をしよう」と思ったのか、その理由を話してみます。

怖かった

「夜の世界」で働く前までは「夜の世界」が怖かったです。

不良とか、ヤクザとか、犯罪とか風俗とか… そういうイメージしかなかったし、ちょっと危険な世界だと思ってた。 ボッタクリバーとか…

なんとなーく、アンダーグラウンドな世界だと思ってたんですけどね。逆にそういう勝手な思い込みが夜の世界に興味を持つキッカケになったと思います。 **怖そう…だから一度見てみたい！** っていう**興味心**がすごく強かったですね。

キレイになれると思った

私はもともとインターネットに興味があったんですけど、地元に住んでいる時はネット環境がなかったので、あまりインターネットに触れる機会はなかったです。でも、18歳で愛知県に就職した後は、「インターネットカフェ」が身近にあって、よく通っていたので、インターネットばかりやってました。

そこで見つけたのは「ニューハーフ」として夜の世界で働いている人達のブログです。

夜の世界で働いているニューハーフの人たちは、みんなものすごくキレイで細くて可愛くて、女性よりも女性らしいっていうか、ものすごく憧れましたね。

その頃から「キレイになりたいなら、ニューハーフとして働けばいいんだ！」と思うようになったんです。私が夜の世界で働き始めた一番大きな理由は「ニューハーフとして働けば女性として生きていける」

そう思ったからです。

「人見知り」を治したかった

私がニューハーフとして夜の世界で働く前、実は「ホスト」をやっていました。

ホストクラブのホストですね。シャンパン飲んで騒いでる髪の毛ツツンの男たちの集団です。

テレビのドキュメンタリーでたまーに特集してますけど、だいたいイメージ通りの仕事です。

そこで働いてました。理由は…

「水商売は最強の接客業だ」と思ってたからです。

私ね、ものすごい人見知りだったんですよ…。 18～19歳の頃は居酒屋で働いてたんですけど、お客さんの注文をマトモに取れないレベルの人見知りで、声が小さくて、人と目を合わせられなくて。

たぶんマクドナルドのアルバイトとか絶対できないですよ。「接客」て行為が無理だったんですから。

それがものすごく自分の中でコンプレックスになってて、どうにかして克服したかった。

「最強の接客業は水商売だ」という意識が頭の中にあっただので、

なにかキッカケがあれば水商売やってみたいって思っていました。ニューハーフの世界にも興味あったし

夜の世界にも興味あったし、人見知りを治したいと思っていたし。

私が夜の世界で働き出したのって、必然だったのかもしれないですね。

整形手術とニューハーフ

ここではニューハーフと整形手術について語ります。

手術の料金や病院は Google で検索してくれればすぐわかるので、あんまり言及しませんよ。

まず、「手術」はニューハーフと切っても切り離せません。手術しなきゃ女になれないと思ってもいいです。

というか、ニューハーフみたいな美しさを手に入れようと思うなら、**手術しなきゃ無理です。**



「手術しなきゃ無理！」ってことは Twitter をやっている MTF の方々も思っているようで、

60 リツイートされました。 **MTF の方々はみんな気づいているようですね。**

じゃあ、ニューハーフはどうやって手術しているのか？ どうやって資金を準備しているのか紹介しましょう

コツコツ貯める

一番多いパターンです。普通に貯金してお金ためて手術します。

ニューハーフの給料ってほしい 25～50 万円なんですけどね、まだまだお客さん持ってない人は、20 万円前後の収入です。 社会保険とか入ってないと思うので、保険料とかドレス代、美容費を差し引くと、

貯金できるお金って月々5万円くらいかな。

一見華やかな世界かと思うだろうけど、フタを開けてみると、普通の会社員よりも貯金できるお金少ないって場合もあるし、生活も結構厳しいです。 仕事も厳しいし、ショータイム練習とか含めると、労働時間は長めです。

長時間働きながら、少ない給料をコツコツためて手術する。

遊びとか、ファッションとか、色々やりたいことはたくさんあるんだろうけど、手術のためにお金を貯める。

結構苦労してますよ。

安い所でやる

日本で仕事しているフィリピン系ニューハーフは物価の高い日本じゃ手術しません。

フィリピンやタイなど、物価の安い国で手術しますねー。

例えば、豊胸手術なんかはフィリピンに住んでいる人にとって考えると、やはり高額なんだけど、

日本円でいうと 15～30 万円で手術できます。

性転換手術も、タイのあまり日本では有名じゃない病院でやれば日本円で 30 万円程度。

日本で働いているフィリピン人なら、日本人と同じくらいの給料がもらえるので、

海外でやるって発想は当然といえば当然の発想ですよ。

また、日本人であっても、フィリピン人の紹介で、格安の病院を紹介してもらえれば、格安で手術できるので

日本で手術するよりは安い金額で、日本と同じような手術ができます。

「フィリピンだと手術が雑かもしれない」と思うかもしれませんが、そんなことはなくて、日本と同じくらい高度な手術ができますよ。

出してもらおう

あまり多数はじゃなくて、ほんと稀なケースなんだけど、「手術代」をお客さんに出してもらおうニューハーフもいます。

ただ、この場合、**手術する = オレの女になる** っていう意味が込められているので、よほどのことが無い限り、お客さんにお金出してもらおうニューハーフはいないですね～。

私が名古屋で働いていた時の先輩ニューハーフには、お客さんに性転換手術代を出してもらった子がいます。しかし、**その子は性転換した後、お店をいきなり辞めて連絡が取れなくなっちゃいました(汗)**

お客さんから恨まれたでしょうね・・・ 悪いことはやっちゃダメですよ。

本当に間違っているのは何なのか？

ここまで読み進めたあなたにはぜひとも気づいて欲しいことがあります。

気づいてほしい…というか、既に気づいたかも知れません。

「ニューハーフってただ普通に生きているだけじゃないの？」ってことに。

そう、**彼女たちは普通に女として生きているだけです。**

(手術・整形はしますがw)

「女として普通に生きる」ただこれだけのことなのに、世の中には「女になりたい」と願っているのに
ぜんぜん女として生きられない人がいますよね。私も昔はそうだったから分かります。

普通に生きていくことが出来ない…**その理由って、誰かに騙されているというか…**

何かが間違っているからだとおもうんだよね。 間違っている 何が？ 何が間違ってるか暴いてみます

常識とは一体何者だっ！

私達の身の回りには「**常識**」っていう**姿も形もないけど恐れられているもの**がありますね。 **常識。**

例えば、私の地元って九州の熊本県なんだけどね。**熊本県の中学生って「校則」で髪型が「丸坊主」**
って決められてます。 私も当然ながら**校則にしたがって坊主頭でした**



高校を卒業後、愛知県で仕事し始めてから気がついたんだけどさ…

中学生の校則で「丸坊主」って九州限定っばいですね。愛知県の中学生は普通に髪の毛長いし、丸坊主の子は珍しい。坊主頭なのは野球部くらいよ。

所変われば「常識」は変化します。愛知県のコンビニでは、おでんに赤味噌を付けるのが常識だけど愛知県外のコンビニは「からし」しか付けませんからねー 常識って一体なに？ 常識って誰の常識なの？って感じですよ。

私が思うに「常識」ってのは、ただの「多数派の意見」であって、それが正しいとか、本来の姿とか、みんなが目指しているものじゃないって思う。

「男が女になる」ってことは、確かに少数派だし、非常識に見えるかもしれないけど、本当はただ人数が少ないってだけで、別に悪いことでもないし、間違っていることでもないと思う。

例えば、私の友達には、愛知県で生まれ育った「名古屋弁丸出しのペルー人」がいるんだけど、見た目は思いつき南米系の外国人。でもしゃべったら名古屋弁。彼は愛知県民から見たら少数派で「非常識」な存在かもしれない。現に、外国人ってことで、警察官から職務質問もよくされるみたい。

でも、彼は何も間違ったことしてないし、悪いことをやっているワケでもない。ただ普通に自分らしく生きているだけなのだ。

「非常識であること」って本当に悪いことなんだろうか？ それとも

「非常識」と決め付け相手を傷つける人の方が遥かに悪いのではないだろうか？ よく考えてほしい

誰が決めやがったそんなこと

私のイチ意見としては、世の中には「正しい常識」もあるけど「間違っただ常識」もあると思う。

例えば、部落差別とか人種差別とか、障害者への偏見というもの。

人種差別してる人は「差別してる」って感覚はなくて「当然」だと思って行動している。

差別される側も「当然」だと思っている。 思い込んでいる。

男が女になるのも同じ。 **「私は変なことしてるから変な目で見られて当然」** と思っているのかも。

だから「会社のことを考えるとなかなか行動できません……」

「子供がまだ小さいので行動できません」という意見が上がるんだろうな。

会社には迷惑かけられないし、子どもには悪影響を与えたくない。 と思っているのだろう。

「人に迷惑かける」とか「悪影響」とか

一体誰がそんなこと決めやがった

って感じ。

悪影響があるとすれば、トランスすることではなく、その人の言動が原因かもしれないし、

相手が偏見や差別心の固まりなのかもしれない。

とにかく「自分の行動が悪いこと」だなんて思っているうちは一生夢なんて叶わないし、

女として生きることもできない。

それに私は「悪いことしろ」だなんて口が裂けても言わないし、 **自分が正しいと思っている行動をしてください**

としか言えない。 **「間違っている」って誰が決めたんだよ。**

自分を持っているのがニューハーフ



「自分を持っている」というのは、自分自身の行動や言葉を自分で決められるってことですね。

「自立」という意味に近いです。そして「自分は何者なのか？」をわかっている人

自分を持っているということは、自分なりの「意見」や「価値観」を持っていて、
簡単に人の価値観には染められないです。

「男が女になるなんて気持ち悪いよな？」

って言われた時に、「え…う、うんそうだよな」と返すのが自分を持っていない人で

「そんなことないよ、ていうかそんなこと言ってるお前のほうが気持ち悪いよ」

と返せる人が自分を持っている人(自分の意見、意思を持っている人)

- ・女になるのは悪いこと
- ・親に迷惑かけている
- ・気持ち悪いって言われてるニューハーフになんてなりたくない

なんて思って、自分の存在を否定したり、「世間が否定している存在になんてなりたくない」と思っていると

女になるのは不可能だと思う。だってさ… 周囲の意見に流されちゃって自分持ってないんだもん。

自分の意見は他人が決めるみたいな… それって自分の行動まで他人に委ねるってことでしょ。無理じゃん

【体験談】気持ち悪いニューハーフになりたくない

私自身思っていたことです。ホモとかゲイとかオカマとか・・・気持ち悪いって思っていた。

TVで見るオカマって呼ばれている人達は、派手な化粧と下品な言動。

男を見れば誰でも見境無く襲いかかって、胸は平気で触らせるし、むしろ触ることを強制する。

キレイな人もいるけど、声が低くて性格はオッサンみたい。

見ているぶんには笑えるけど、「私が実際にああなりたいか？」って思うと、**むしろなりたくない。**

気持ち悪いし、世間からも変態だと思われる。

私がニューハーフとして生きていこうと**決心固めるまで、そんな葛藤があった。**

夜の世界というアンダーグラウンドな世界で生きていきたいのか？ 本当にオカマになりたいのか？

悩みに悩みまくった。でも私は女になりたかった。

誰から何を言われようと女として生きて行きたかったのだ。

21歳になって、実際にニューハーフのお店で働き出し、「オネエ」や「オカマ」と呼ばれる人たちと

一緒に働くようになり、「ホモ」や「ゲイ」と呼ばれる同性愛者と触れる機会も増えた。

ゲイといえば、頭の中性欲しかないような男性の同性愛者。変態で気持ち悪い吐き気のする生き物だ

そう思っていたのだが、本物の「ゲイ」は普通だった。女っぽい所もあるけど、普通に生きている人間だった。

私は相手がどんな人か知ろうともせず、一方的に気持ち悪いと思い込んでいたのだ。

それこそ偏見であり差別なのではないか？ そうだ、差別していたのは私自身だったのだ。

差別している人やモノがあるなら、**一度当事者に会ってから差別するか決めたほうが良い**と思った。

「自分」って一体なんなの？

ニューハーフにしてもゲイにしても、彼らはただ…

ただ、「自分らしく生きている」だけなのだ。

世間一般の人たちは自分らしく生きている彼らを指差して、「変態」呼ばわり。差別と偏見の塊だ。

人のことをあーだこーだ言っただけで差別する人間よりも、自分らしく自分の道を生きている人の方がはるかに魅力的だと思う。私も魅力的な人間になりたい。

「自分らしく」生きて行きたい。でも、「自分」って一体何？

「自分」の正体とは…「価値観」であると思う。

赤色が好きか、青色が好きか、それとも黄色が好きか。

男として生きていきたいか、女として生きるか？ それとも中性か？

自分はどう行きたいのか、何が好きなのか？ 好きなもの、嫌いなモノ。

それを好きだと思う価値観、嫌いだと思う価値観そのものが「自分」だと思う。

チャーハンよりもカレーの方が好き、どっちも嫌い、どっちも好き。

価値観とは「選択すること」で自覚できる。つまり価値観とは、A か B かを自分自身で決めることだと思う。

それはたとえ親しい友人や仲間が「お前は A がいいと思う」と決めたとしても、

「いや、わたしは B の方が好きなんだ！」と自分で決めることだ。

自分を見つける方法

自分を見つける方法は「選択」することだ。

A か B か、それとも C か？ 自分はどっちが好きなのかを選ぶこと。

「どっちが正しいか？」じゃない、**「私はどっちが好きなのか？」**だ

他人の意見を聞いてもいいが、最終的に決めるのは自分自身。

良いか悪いかで行動を決めてはダメだ。 **「好きか嫌いか」で決めるべき。**

私は一体なにもの？ 少なくとも男ではいたくないし、女に憧れを持っている。

周囲は女で生きることを反対しているけど、それでも私は女になりたいと思っている。

私は自分が男でいることは嫌いだが、女でいることは大好きだ。

だから女で生きていこうと思う。

生まれた時の性別や戸籍は男性だけど、そんなの関係なくて、私は女で生きていこうと思う。

そうやって決めること(選択すること)が **自分を見つけるための唯一の方法だと私は思うぞ。**

さいごに

私がニューハーフとして働き、ニューハーフの世界で生きてきた中で感じることは、
「みんなが正しい行いをしている」って部分ですね。

身体を整形するにしても、顔を整形するにしても、ホルモンやるにしても、恋愛にしても、
彼女たちは、自分の正しいと思う行動を進んでいるんだなって思う。

そして「自分たちの価値観を持っている」ってこと。 **「正しい行動」と「自分たちの価値観」**
この2つがとても印象的でした。

当時女として生活を始めたばかりの私は心のどこか「私はまだ戸籍が男性なのだから女として生きちゃダメ」
とっていた部分があったのかもしれないです。 だから完全に女になるまでは、恋愛とか SEX とか
そーいうことは抑えておこうと思ってました。

しかし、ニューハーフのお姉さん達は、身体が男性の頃から、ホルモンやる前から「言動が女」でした(笑)
高校の頃は化粧して学校に行ったり、彼氏がいたり、女子の制服を来たり、男性と普通に SEX してたり

見た目はまだまだ男の子だったと思うんだけど、彼女たちの心は女性でした。

女性だから、女として行動する。 周囲は変に思うかもしれないけど、そんなの関係ない、私は女なのだから。

そんなオーラを感じました。

それと同時に、なにか得体のしれないモノに行動を制限されている私がバカだ思うようになったんです。

なんか・・・**「常識」ってモノに囚われすぎだなって思った。**

このレポートで一番伝えたかったのは、そんなニューハーフ達の価値観、考え方。

そして、あなたの中の価値観をぶっ壊して、**新しい視点で世界を見て貰いたいな**って思ったからです。

ニューハーフのアイデンティティ(自意識)は男でも女でもなく、ニューハーフです。

「ニューハーフ」という存在を自分自身で認めています。肯定してるんです。

男から女になろうとしている中途半端な性別…じゃないです。ニューハーフです

生まれた時からニューハーフです。 ニューハーフが気持ち悪いとか悪だとか思ったら生きていけません。

「女になり損なった生き物」だとも思ってません。私はわたしなのです。

奴隷制度が会ったアメリカで、奴隷に生まれた黒人は「奴隷に生まれて最悪」って思うのか？

それとも「奴隷制度があるアメリカ最悪」って思うのだろうか？

少なくとも私は後者であって欲しいと願う。

「オカマに生まれて最悪、偏見差別の対象じゃん」と思うのか？それとも…

「日本はオカマや LGBT の差別があつて最悪」と思うのか。

私はオカマやニューハーフが悪いだなんて一切思わない。誇りを持っていきている。

「親に迷惑」とか「会社に悪影響が」といっている当事者は、

自分自身が自分のことを差別してるんじゃないかと思う。 自分のこと差別するのそろそろ辞めてほしいと思う。

このレポートが何かのキッカケになれば幸いです。

著者:スザンヌみさき

